

大日本スクリーン製造株式会社 2011年3月期 決算説明会

2011年5月11日

代表取締役社長 最高執行責任者(COO)橋本 正博

本日のアジェンダ

- 2011年3月期 連結業績結果概要
- 事業状況
- 2012年3月期 連結業績予想
- 中期3ヵ年経営計画「NextStage70」骨子 他

資料取り扱い上の注意

- 本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。また、東日本大震災の影響につきましては、現時点で間接的な影響を十分把握することは困難な状況にあります。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。
- 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

2011年3月期
連結業績結果

2011年3月期 連結業績結果

(単位：億円)		上期		下期				通期					
		実績		2/7予想		実績		2/7予想		実績		対予想差額	
売上高		1,104		1,446		1,445		2,550		2,549		▲0	
SE		692		1,050		1,049		1,743		1,742		▲0	
FE		174		158		152		333		327		▲5	
MP	プリント配線板関連機器 (PE)	233	37	234	30	239	30	467	67	473	68	6	1
	印刷関連機器 (MT)		196		204		208		400		404		4
その他(外部売上のみ)		3		4		3		7		6		▲0	
営業利益		110		140		157		250		268		18	
SE		110		-		170		-		281		-	
FE		6		-		▲6		-		0		-	
MP	プリント配線板関連機器 (PE)	▲7		-		▲5		-		▲13		-	
	印刷関連機器 (MT)	-		-		-		-		-		-	
その他および調整額		0		-		▲1		-		▲0		-	
経常利益		109		135		155		245		265		20	
当期純利益		95		129		161		225		256		31	

2011年3月期 1株当たり期末配当 5円(予定)

*SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

2011年3月期 連結業績分析

売上高

実績 2,549億円 ・ 前期 1,641億円 (前期比：908億円増加)

(単位：億円)

セグメント	通期実績			ポイント
	当期	前期	差異	
SE	1,742	1,009	733	・バッチ式/枚葉式両洗浄装置、コーターヘッドが大幅増加
FE	327	198	128	・第8世代、第5世代向け装置が増加
MP	473	PE	42	・PE：検査装置、露光装置とも回復 ・MT：CTPは台数が大幅に伸び、売上増加 PODの売上は下期回復するも、通期では微減
		MT	384	

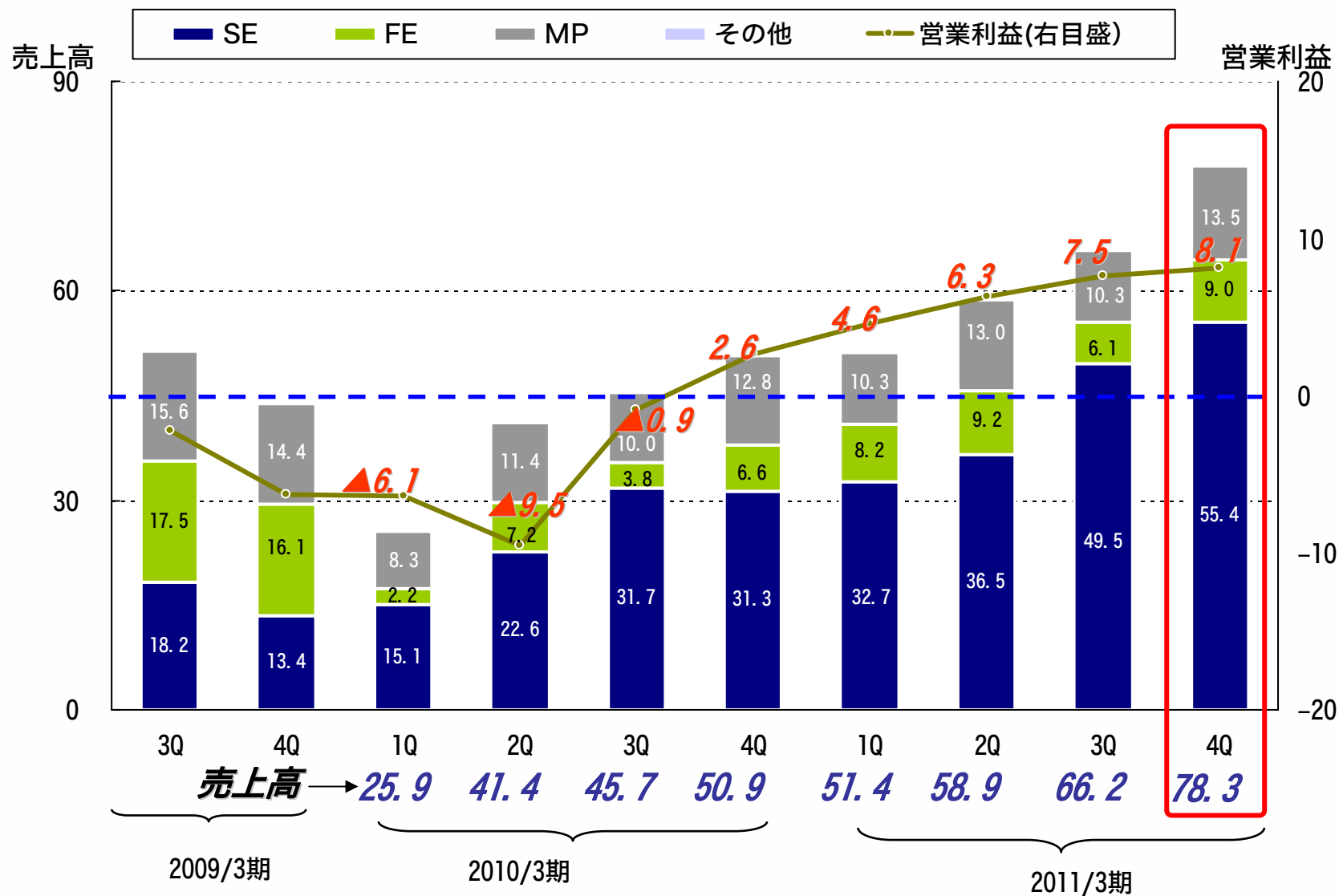
営業利益

実績 268億円 ・ 前期 ▲140億円 (前期比：408億円改善)

(単位：億円)

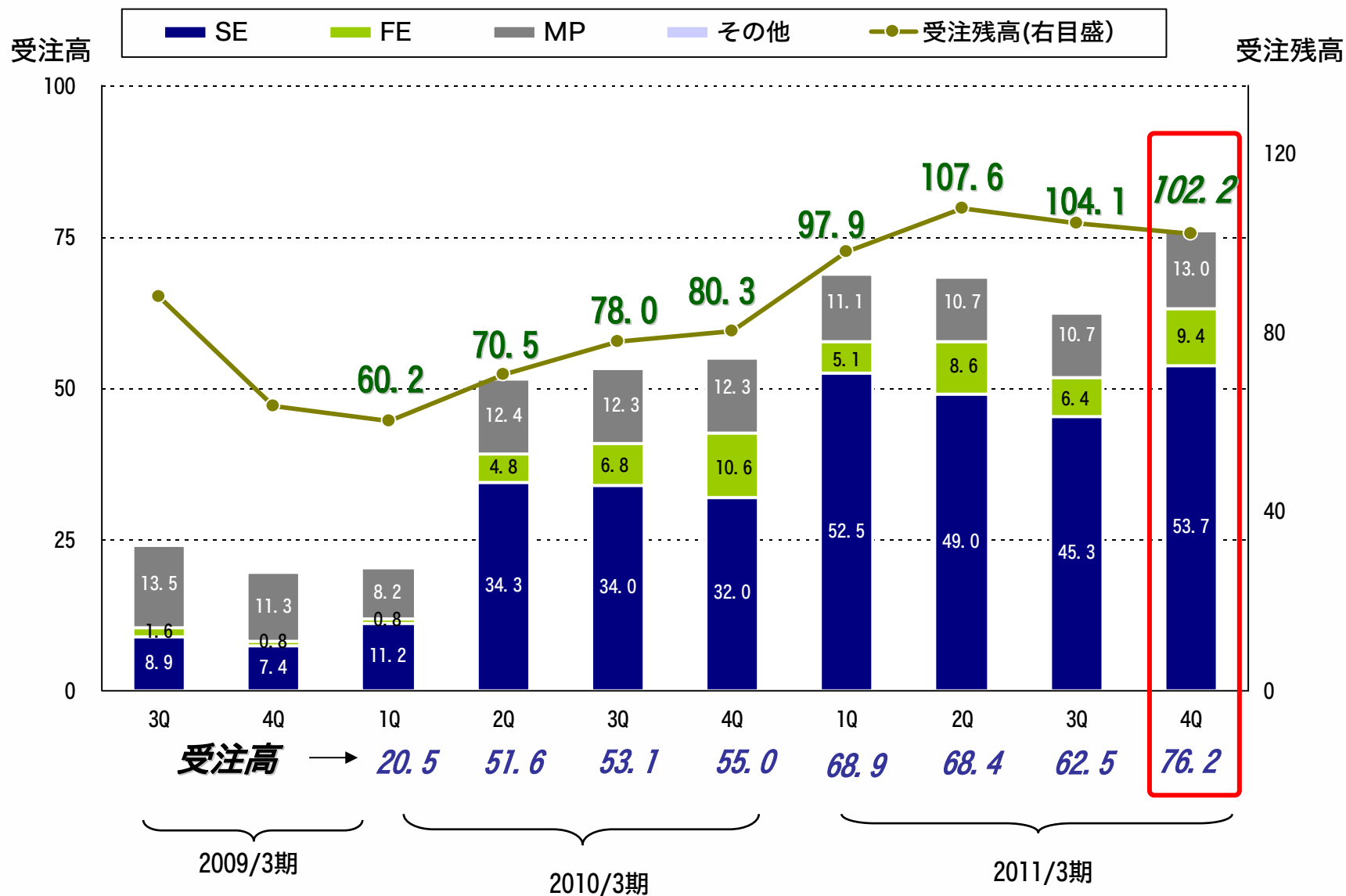
セグメント	通期実績			ポイント
	当期	前期	差異	
SE	281	▲114	-	・売価下落はあったものの、売上の増加で大幅増益
FE	0		-	・売上が回復し、黒字転換
MP	▲13		PE	-
		MT	▲24	-

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



(単位：十億円)

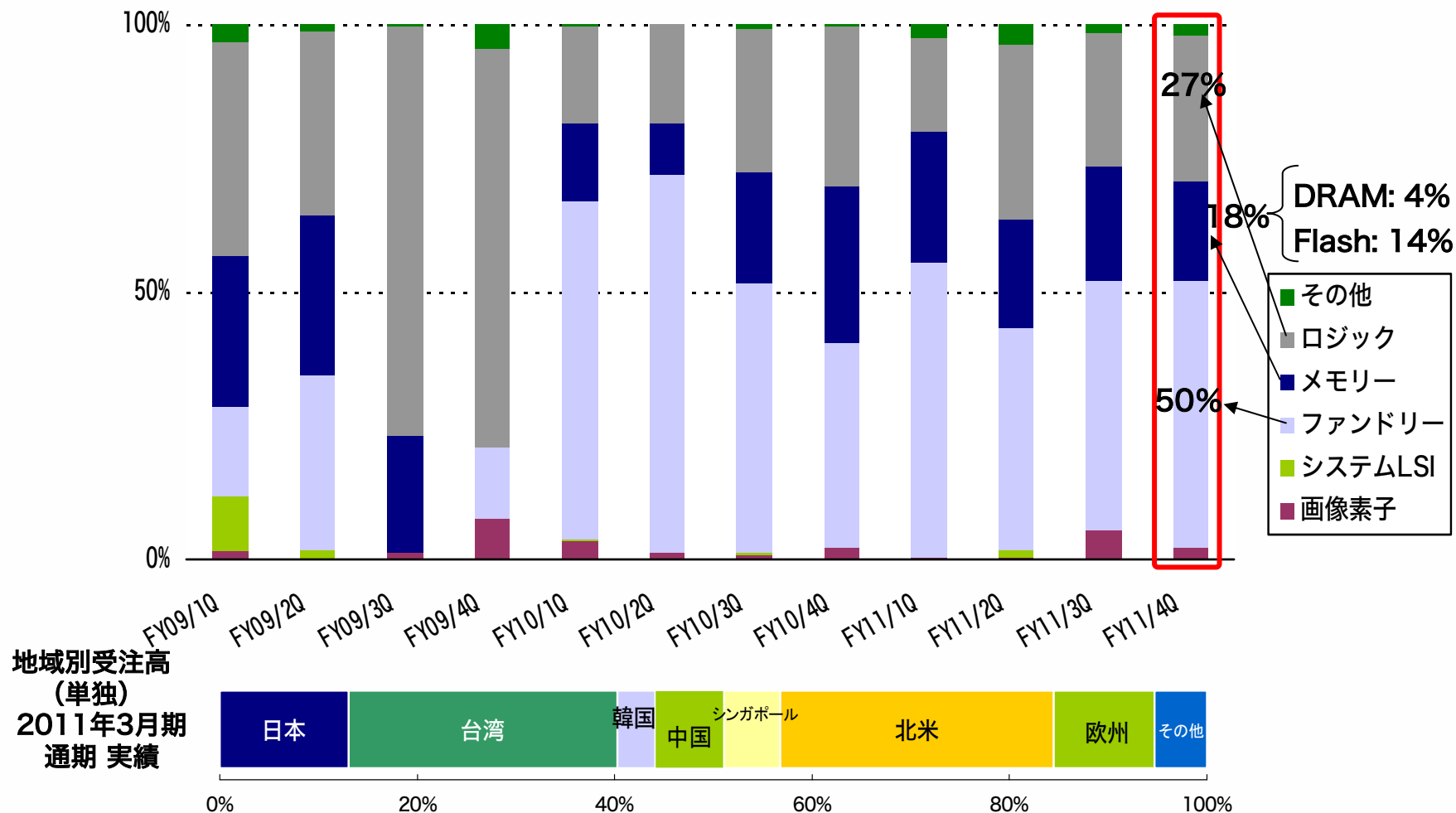
受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



(単位：十億円)

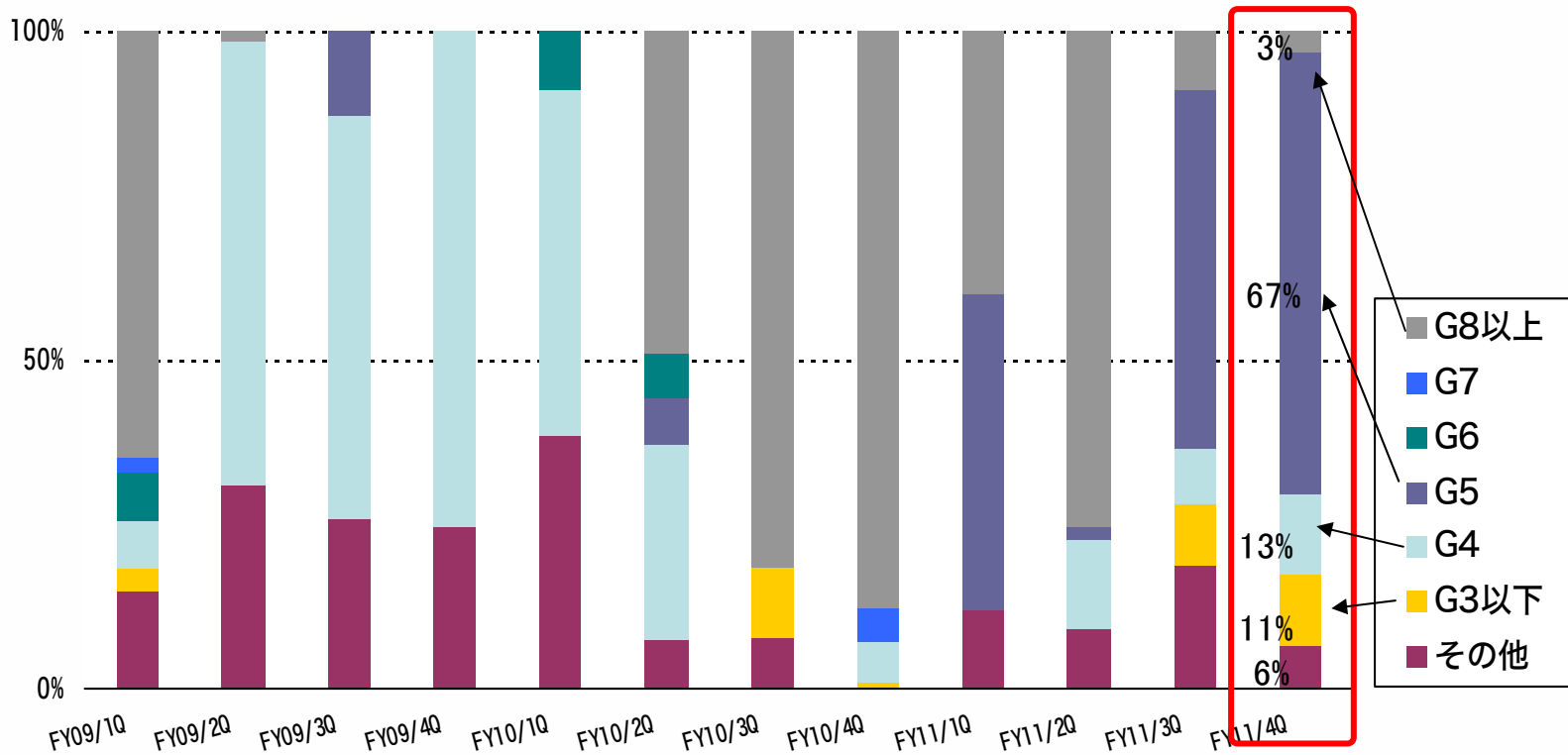
<SEセグメント> デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

➤4Q受注高 : 537 億円 (連結)



<FEセグメント> 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

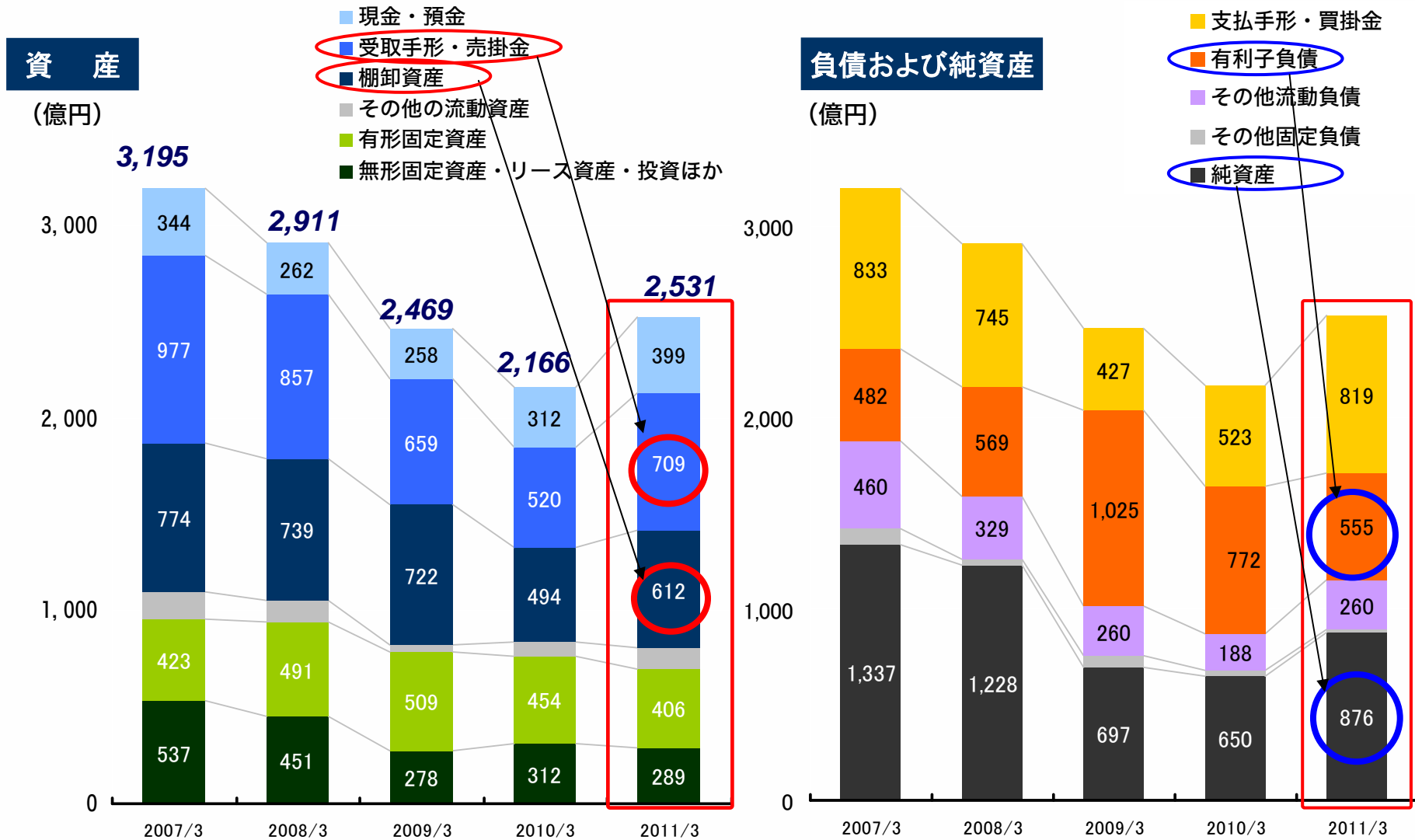
➤4Q受注高 : 94 億円 (連結)



地域別受注高
(単独)
2011年3月期
通期実績



貸借対照表 (連結)

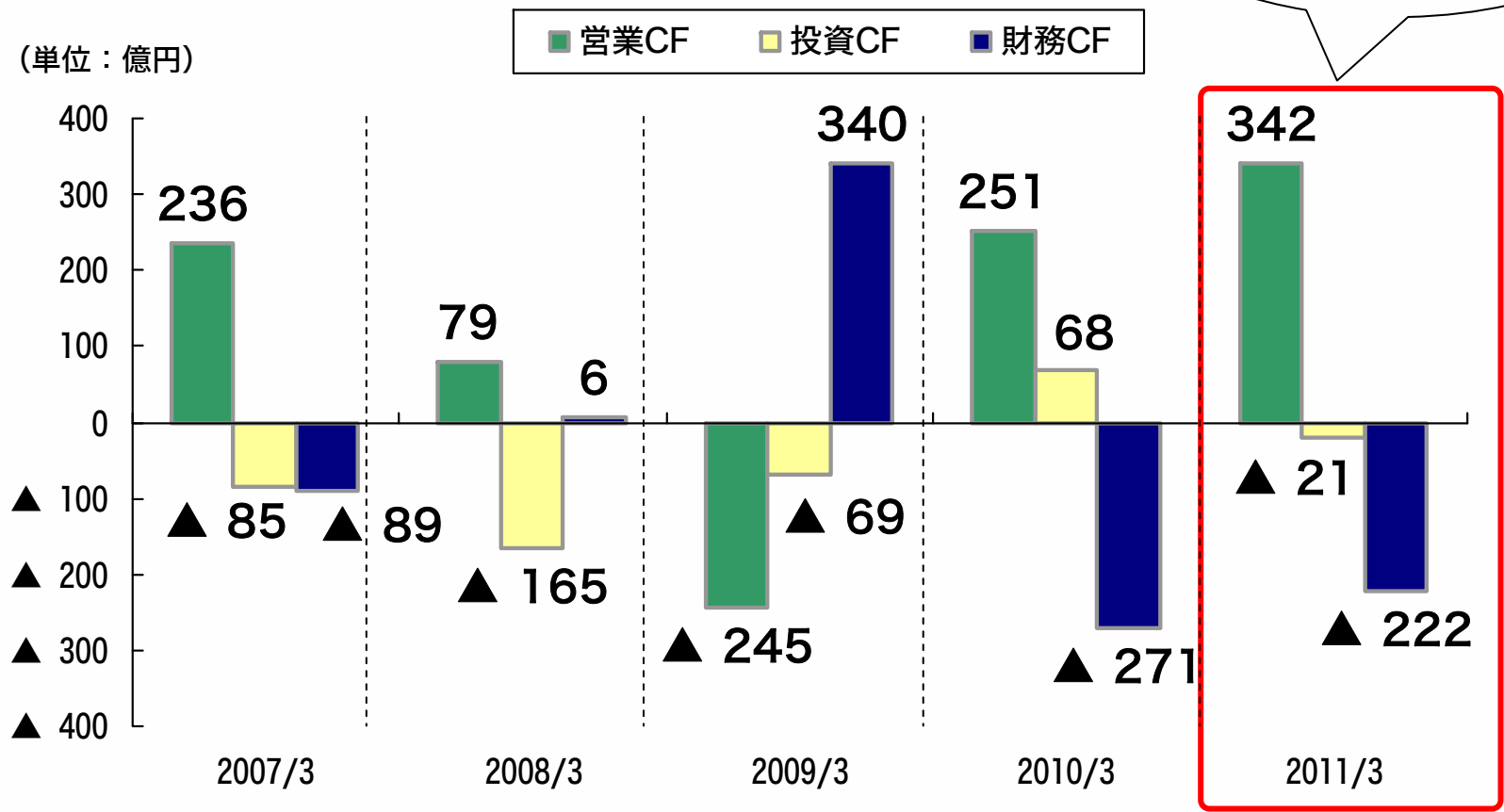


自己資本比率 29.8% (2010/3) → 34.4 % (2011/3)

キャッシュ・フロー（連結）

フリーキャッシュ・フロー：321億円

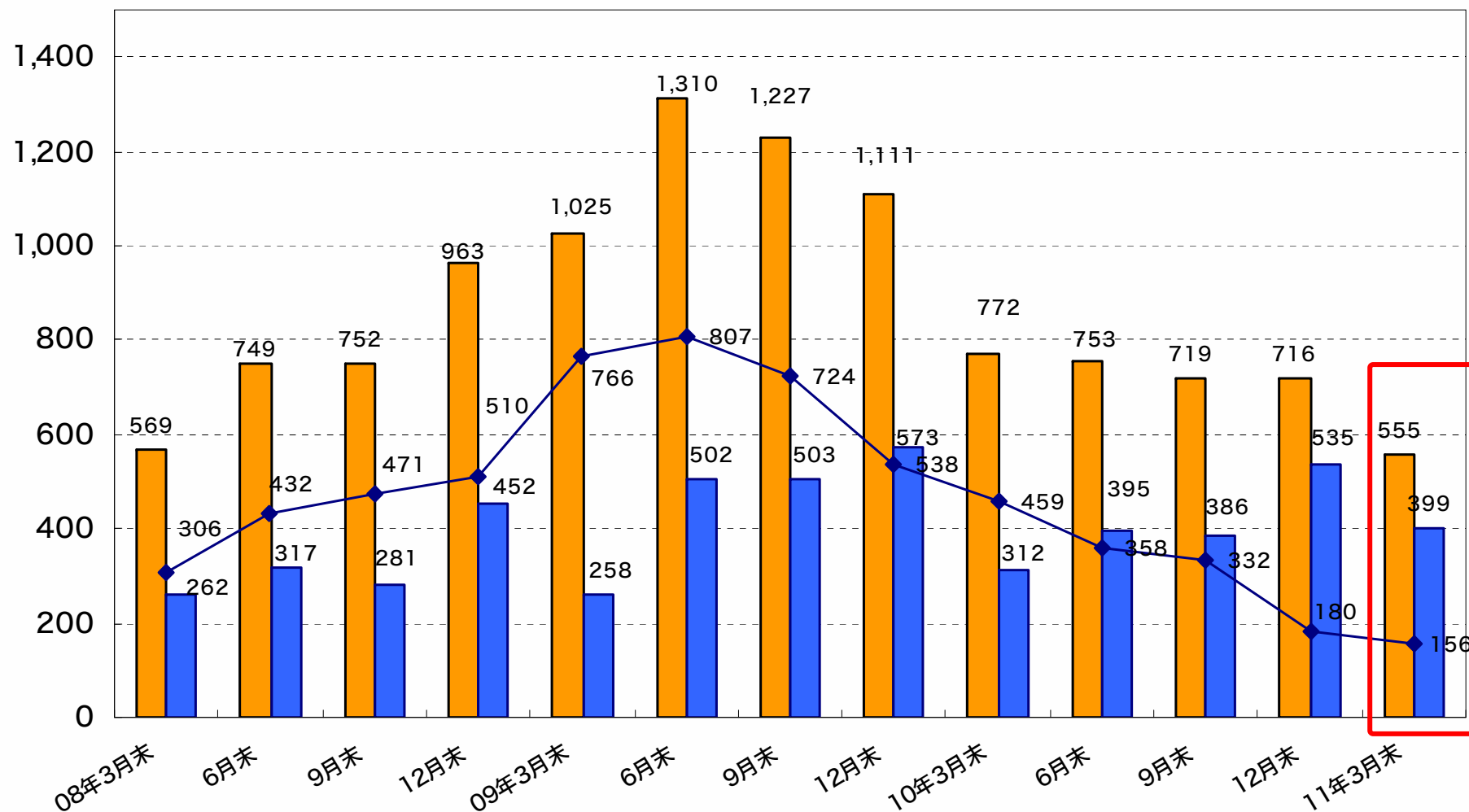
営業CF：342億円
 投資CF：▲21億円
 財務CF：▲222億円



有利子負債推移(連結)

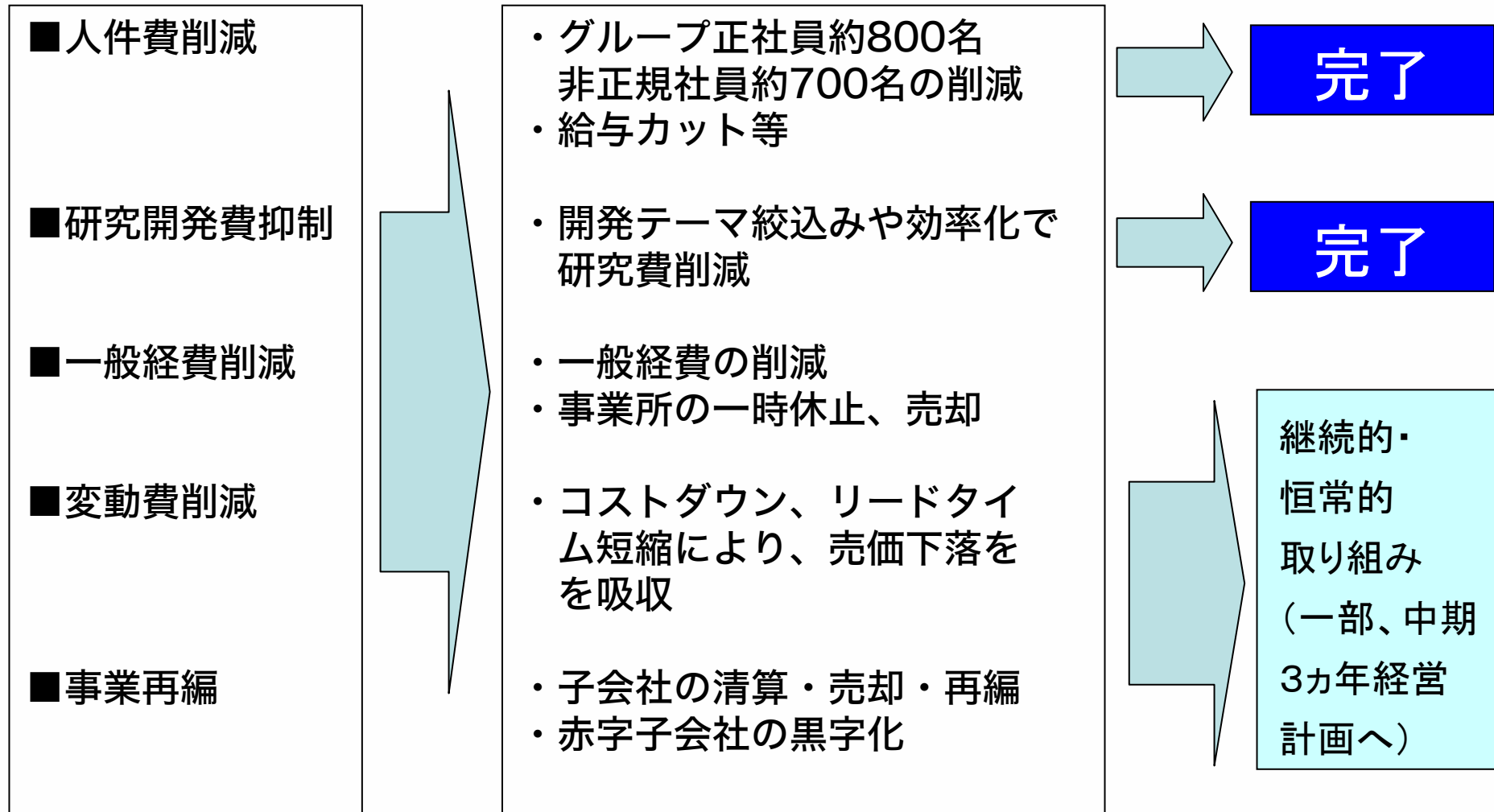
(単位：億円)

■ 有利子負債
 ■ 現金及び預金
 ◆ ネット有利子負債



※2008年3月末有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

再建策について（まとめ）



事業状況

東日本大震災について

直接的影響：

- ・グループ従業員、家族の人的被害はなし
- ・<SE>子会社「(株)クォーツリード」（半導体機器用石英部品製造、郡山市といわき市に工場）が被災
⇒郡山工場：3/22に操業再開
いわき工場：順次再開
- ・<SE>子会社の「北上サービスステーション」（北上市）が被災
⇒震災後数日で業務再開。お客さまの復旧サポートに対応
- ・<MP>子会社の「仙台営業所」（仙台市）が被災
⇒震災後数日で業務再開。お客さまの復旧サポートに対応

間接的影響：

- ・当社サプライチェーンへの影響
被災された調達先さまあり。復旧状況を注視、代替品や設計変更を検討
今後の材料、部品などの調達状況によっては生産活動にも影響を及ぼす可能性がある
- ・お客さまの投資計画への影響
設備投資姿勢には大きな変更はないと考える
ただし、半導体ウエハーなどの材料や部品のサプライチェーンに混乱が生じ、
お客さまにおける生産活動の低迷に伴う設備投資の先送りや製造設備納入遅延の影響などを懸念

2012年3月期連結業績予想には、震災による不確定要素は織り込まず

セグメント別事業状況

SE & FE

4Qの状況

【SE】

- ・ 四半期では高水準な受注（537億円）、売上（554億円）を計上
 - ファンドリー、ロジックの活発投資が継続
- ・ 震災による売上延期、受注キャンセルはなし

【FE】

- ・ 中小型サイズのLTPS向けの投資が継続
 - LTPS向けコーターデベロッパーが受注を牽引
- ・ 中国のTV向け大型投資（第2グループ）は、パネル市況悪化で、一旦延期

2012年3月期の展望

【SE】

- ・ 一部、デバイスメーカーで、装置発注時期の遅延の動き
- ・ 通期では、2011年は前年比プラス成長を予測

【FE】

- ・ PV、OLED、LTPSの成長分野に注力
- ・ 有機EL向けノズルプリンティング装置（パイロットライン向け）販売活動継続

セグメント別事業状況

MP

4Qの状況

【MT】

- ・ CTPは、新興国向けを中心に堅調に推移
- ・ PODは回復傾向ではあるが、売上計画は未達成
- ・ 本体で約100名の他部門異動により固定費を抑制

【PE】

- ・ PCB業界の設備投資は堅調。露光装置、検査装置が国内やアジアで伸長
- ・ 通期黒字転換

2012年3月期の展望

【MT】

- ・ CTP販売台数は堅調（為替や価格低下リスクから、更なるコストダウンに注力）
 - 先進国向け超高速CTPをリリース
 - 新興国向け新機種CTPは、引き合い多く、出足好調
 - 中国生産子会社の増床により、現地生産拡大し、コストダウンを加速
- ・ PODは回復基調（日本、北米、南米地域における販売増加に注力）
 - ロールタイプ機のラインアップ拡充により販売加速
 - オフセット印刷の品質に匹敵する枚葉機の市場本格投入

【PE】

- ・ 露光装置、検査装置の製品強化、黒字体質の定着を図る

2012年3月期
連結業績予想

2012年3月期 連結業績予想

設定為替レート: USD1=80yen, EUR1=115yen

(単位: 億円)

		2012年3月期予想						2011年3月期実績					
		上期		下期		通期		上期		下期		通期	
		予想		予想		予想		実績		実績		実績	
売上高		1,380		1,420		2,800		1,104		1,445		2,549	
SE		990		920		1,910		692		1,049		1,742	
FE		155		255		410		174		152		327	
MP	(PE)	232	31	241	32	473	63	233	37	239	30	473	68
	(MT)		201		209		410		196		208		404
その他(外部売上のみ)		3		4		7		3		3		6	
営業利益		125		135		260		110		157		268	
SE		-		-		-		110		170		281	
FE		-		-		-		6		▲6		0	
MP		-		-		-		▲7		▲5		▲13	
その他および調整額		-		-		-		0		▲1		▲0	
経常利益		120		130		250		109		155		265	
当期純利益		110		120		230		95		161		256	

*2012年3月期 年間配当金予想: 1株当たり配当金 5円(期末)

中期3力年経営計画
「*NextStage70*」 骨子
(2012/3期～2014/3期)

基本ガイドライン

1. 経営目標

■ダウンサイドにおける収益性の確保

- 収益構造確立への継続的アプローチ
- 既存製品の高付加価値化とコスト削減の継続

■純資産の回復

- 「利益率の向上」および「資本効率の向上」を追究し、「自己資本比率」を高める

2. 基本方針

「収益構造確立と新たな成長への基盤づくり」

■安定した収益構造の確立

- 価格競争力の強化
- 高収益製品の強化と顧客価値創出型製品の育成
- 外部環境の変化に応じた事業構造転換力の強化

■新たな成長へ

- 新事業の展開へ開発投資を進め、新たな成長を目指す
- グローバル化への基盤整備

3. 数値目標

「自己資本比率 50%以上、純有利子負債ゼロへ」 2014年3月末

- 利益率の向上 : 売上高当期純利益率 7.5% 以上
- 資本効率の向上: 総資産回転率 1.1回転 以上

新たな成長への取り組み

既存事業のさらなる成長と新規事業の創出

- 既存事業における成長分野へ新技術による深耕、拡大による成長
 - 技術革新への対応に向け、SE事業へ重点的開発投資
 - 太陽電池関連機器事業の拡大
 - インクジェット技術のアプリケーション拡大（印刷メディア多様化、FPDへの展開）
- 3年以内に新分野での事業化を目指す（積極的な開発投資を推進）
 - 新エネルギー分野（塗布技術を活用したLiイオン電池製造装置）
 - プリンテッドエレクトロニクス分野（印刷・塗布技術とエレクトロニクスとの融合）

グローバル化への基盤整備

- リスクマネジメントの徹底
- 人事戦略 — グローバル人材の育成、人員適正化、人事制度改革
- 財務・会計戦略 — IFRS対応と資金のグローバルレベルでの効率化
- IT戦略 — 情報システムの基盤整備とセキュリティの強化

事業別重点施策

1. SE

- 収益構造の改革
(サプライチェーンマネジメントのさらなる充実)
- 「品質力」の向上
(販売、製品、サービスのすべてにおける品質向上)
- 製品競争力の向上
(次世代プロセスや高生産性など高付加価値製品の開発)

2. FE

- 大型TV用有機ELパネル製造一貫ラインの技術確立、売上拡大
- 太陽電池関連機器事業の拡大
- モノづくりの再構築
- 最終年度の新規領域の売上比率50%以上を目指す

3. MP

- POD事業：製品ラインアップ充実、消耗品ビジネス拡大、販売チャネル強化
→ 最終年度のPOD関連製品の売上比率50%以上を目指す
- CTP事業：価格競争力の高い製品を投入し業界No.1を堅持
- PE事業：アジア市場において露光装置、検査装置ビジネスを拡大

上程の経緯

- ・ 2009年継続導入の買収防衛策が本年6月に期間満了
- ・ 現状や判例の動向を勘案しつつ、再上程の是非を検討
- ・ 独立委員会の意向拝聴

買収防衛策の内容

- ・ 事前警告型の防衛策：株主総会で導入の承認を得る
- ・ 独立委員会を設置し、取締役の恣意的な発動を規制
- ・ 株主意思確認総会の承認で防衛策の発動
- ・ 有効期間3年（従来は2年）



**定時株主総会（6月28日開催予定）
にて議案上程**

SCREEN

Fit your needs, Fit your future

